

平成30年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 大里柳 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

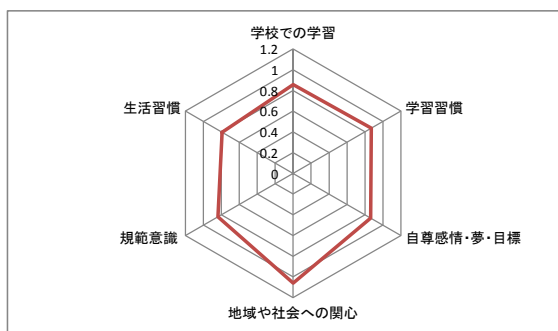
(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	71	4.3	54	8.6	61	5.0	50	9.6	60
全国	8.5	71	4.4	55	8.9	64	5.1	52	9.6	60

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・すべての領域で全国平均を上回っており、無回答率も低かった。 ・特に「読むこと」と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域の正答率が全国平均を大きく上回っていた。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	・説明する文章から必要な情報を読み取る問題と、主語と述語の関係に注意して文章を正しく書く問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・物語の構成文を読み、その工夫点を見つける問題の正答率が少し低かった。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	・すべての領域で全国平均を上回っており、無回答率も低かった。 ・特に「話すこと・聞くこと」と「書くこと」の領域の正答率が全国平均を大きく上回っていた。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	・話合いの様子から、質問者の意図を考える問題と、紹介文を読み、表現の工夫を考える問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・二つの文章を読み比べて共通点を見つける問題の正答率が少し低かった。	
算数A	全体的な傾向や特徴など	・すべての領域で全国平均を上回っており、無回答率も低かった。 ・特に「量と測定」と「数量関係」の領域の正答率が全国平均を大きく上回っていた。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	・180°より大きな角度を求める問題や百分率を求める問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・円の直径と円周の関係を見つける問題の正答率が少し低かった。	
算数B	全体的な傾向や特徴など	・すべての領域で全国平均を上回っており、無回答率も低かった。 ・特に「数と計算」と「数量関係」の領域の正答率が全国平均を大きく上回っていた。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	九九の表のきまりを例文を基に説明する問題や、数の規則性を見つけて考える問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	二つのグラフから読み取れることを文章にまとめる問題の正答率が少し低かった。	
理科	全体的な傾向や特徴など	・すべての領域で全国平均を上回っており、無回答率も低かった。 ・特に「生命」と「地球」の領域の正答率が全国平均を大きく上回っていた。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	・腕が曲がる仕組みについて適切な文章を選ぶ問題や流れる水の働きで文章から「たい積」という言葉を書く問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・二つの水溶液を区別する実験の結果から適切な内容を選ぶ問題の正答率が少し低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「今住んでいる地域の行事に参加していると思う」「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」と答えた児童が全国平均を上回り、地域や社会への関心が高まってきた。 ・「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」「家で宿題をしている」「学校の授業以外で1時間以上勉強している」と答えた児童が全国平均より低かった。 ・「自分にはよいところがあると思う」「人の役に立つ人間になりたいと思う」と答えた児童が全国平均より、低かった。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> ・まず、自分で考えてから、話し合い活動を積極的に行うことで、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるようにする。(全校) ・理科の学習では、「めあて」「予想」「結果」「考察」「まとめ」「振り返り」を大事にした授業を行うにする。(3年～6年)

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・帰りの会等で、児童のよさを認め合う時間を確保し、自尊感情が高まるようにする。(全校) ・家庭学習ハンドブックを月始めの1週間で確実に回収し、賞賛・支援を行い、家庭学習への意欲を高めるようにする。(全校)
